

で、これはストラトキャスター40周年を記念してフェンダー・ジャパンから発売されたST-57ASで間違いないだろう。ネックと指板の虎杢は実は印刷によるものであるが、本物かと思えるほどのリアルさだ。こちらもチューニングは不明。

16 ASHER S-90

ジャクソンとは20年以上の付き合いというカリフォルニアのビルダー、ビル・アッシャーの作品。ジャクソンのアコースティック・ギターにはトランス・オーディオのピックアップ・システムが装備されているが、それはビルがインストールしており、カスタム・ギターの提供のみならず、リペアマンとしてもジャクソンをサポートしている。S-90はスワンプ・ッシュ・ボディ、バーズアイ・メイプル・ネック、アーケイン製P-90タイプ・ピックアップ、10ポジションのバッシブ・トーン・コントロール、カラハム製トレモロをフィーチャー。近年、ジャクソンのお気に入りのエレキ・ギターのひとつとなっている。残念ながらチューニングは不明。

17 ASHER Electro Sonic Gold Top

こちらもビル・アッシャーが手掛けたカスタム・ギター。マホガニーのネック・スルー・ボディにメイプルのトップが重ねられており、1960年代製のテスコのゴールド・フォイル・ピックアップがネック側に、1960年代製のグヤトーンのピックアップがブリッジ側に搭載されている。ジャスカーのミディアム・ジャンボ・フレットが使用され、トーンプロスのAVR II ブリッジとボディ・スルーのテイルピースを装備。新旧の部品をミックスしたハイブリッドなギターである。チューニングはスタンダード。

18 BENEDICT Groove Master

故ロジャー・ベネディクトが創設したミネソタ州ミネアポリスの手工ギター工房、ベネディクト・ギター・カンパニーによるSTタイプのギター。ホロウ・ボディ構造となっており、サウンドホールが二連の八分音符をかたどったユニークなデザイン。トレモロ付きのグルーヴ・マスターも存在するが、写真のギターはハードテイル（トレモロなし）仕様となっている。チューニングは“D-A-D-F#-A-D”。

19 COODER Caster

ジャクソンの友人であるライ・クーダーが、サンバーストのストラトキャスターにヴァルコ製ラップ・スティールとテスコのエレキからピックアップを移植して取り付けていることは、熱心なファンの間では良く知られている。同様の改造を施すフォロワーが多く、そういったストラトをいつしかクーダー・キャスターと呼ぶようになった。ジャクソンのこのギターもクーダー・キャスターと名付けられている。ヘッドには“Supro”的ロゴがあるが、実際には彼の友人が作ったカスタム・ギター。チューニングは6弦より“C-G-D-G-D-D”。

20 POGREBA Resonator Guitar

前回の来日公演で本邦初お披露目でギター・マニアの注目を浴びたのが、このボグレバのリゾネ



ミックもデイヴィッドが愛用した一本だ。デイヴィッドは「ノー・ニューカス」のビデオに収録された「孤独なランナー」でこのモデルを使用していたが、グレッグも同曲で使用。6弦仕様で、ヴァルコが製造したウッド・ボディのモデルである。ネック材の左右にダボを打ってボディを形成する部材を取り付けるというユニークな構造を持つ。レトロなデザインに時代を感じさせる。

2 RICKENBACHER Frying Pan

次に紹介するラップ・スタイルはギターの歴史に名を残すフライパン。共鳴胴を持たず、マグネティック・ピックアップで音を発生させる最初のエレキ・ギターである。戦前のアメリカで一大ブームを起こしたハワイアン音楽だが、ステージにおいてワイゼンボーンやドプロのようなアコースティックなスタイル・ギターでは、満足いく音量を得ることができなかった。そこで開発されたのが、電化されたスタイル・ギター。アルミニウムのボディ、ネックが特徴。ただしアルミニウムは温度の影響を受けやすく、伸縮によってチューニングが不安定になるため、他のボディ素材のモデルに置き換えられた。革命的な楽器ではあったが、短命に終わっている。

3 RICKENBACHER B-6 1930's

こちらもデイヴィッド・リンドレーも愛用したラップ・スタイル。ペイクライト製のボディ、ネックを持つ。グレッグは前回の来日でも1940年代製のB-6を使用していたが、

今回の物は初期型(1930年代製)だ。クロム・シルバーのプレート、ピックアップを挟んでボリュームとトーンがボディの左右に並んでいる。ヘッドのロゴが、現在の“Rickenbacker”ではなく、“Richenbacher”となっているのも、往年のリッケンバッカー製品の特徴である。

4 ASHER Electro Hawaiian S-6 Prototype

グレッグ・リーズもまたビル・アッシャーと親交が深く、1998年以来の付き合い。翌1999年にはアッシャーのスタイルを使い始めたそうだ。写真はアッシャーが製作したプロトタイプのひとつ。アッシャーのスタイルと言えば、ワイゼンボーンにインスピライアされたボディ・シェイプが特徴だが、このスタイルはスロットテッド・ヘッドを持ち、またエッジに段差をつけてあるため他の市販品とは印象が異なる。ローステッド・スワンプ・ッシュ・ボディ、ローラーのピックアップをフィーチャーしている。

5 DUESENBERG Fairytale

アメリカの50-60年代のギターの雰囲気と、現代的な機能性を融合させたユニークな製品を創作するドイツのメーカー、デューゼンバーグのラップ・スタイル。同社のスタイルは、マルチ・ベンダーと指板上をスライドするカポを装備しているのが特徴。マルチ・ベンダーはかつてビッグスピーが作ったバム・ペダルと構造が似ており、手の平でアームを押して特定の弦をバンドする仕組みで、



後述のペダル・スタイルに似たフレージングを可能にしている。マルチ・ベンダーはバム・ペダルと違って、オプション・バーツを使用すればペンド・ダウンも可能である。

6 OAHU Diana

前述のナショナル・ダイナミック同様、ヴァルコ製のラップ・スタイル。ヴァルコは所謂OEMメーカーとして、ナショナル、エ

